

Ensemble Poska

アンサンブル・ポスカ 結成30周年記念演奏会



平成27年(2015年)11月23日(祝)
新長田勤労市民センター別館 ピフレホール

主催 アンサンブル・ポスカ
後援 兵庫県高等学校教育研究会音楽部会

Program

第1部 アンサンブル・ポスカ

クラリネット、ファゴットとピアノのための協奏的小品第2番 作品114

..... Felix Mendelssohn-Bartholdy

アンサンブル・ポスカ

ピアノ 粉河 伸行

クラリネット 山崎 隆弘

ファゴット 隈本 昌洋

第2部 (ゲスト・ステージⅠ) フルート独奏

ヴァイオリン・ソナタ第1番イ長調 Op.13(フルートとピアノ編)

..... Gabriel Urbain Fauré

1. Allegro molto

2. Andante

3. Allegro vivo

4. Allegro quasi presto

フルート 山本 順子

ピアノ 福島 珠実

第3部 (ゲスト・ステージⅡ) ホルン独奏

ポエム

..... Boris Anissimov

カウボーイの歌による小変奏曲

..... Rene Berthelot

ホルン 永井 孝治

ピアノ 長谷川香織

《 Pause 》

第4部（30周年記念ステージ） ピアノ五重奏

ピアノと木管楽器のための五重奏曲 Op.55

1. Allegro non troppo
2. Scherzo. Allegro assai
3. Andante con moto
4. Allegro appassionato



ピアノ	粉河 伸行
フルート	山本 順子
クラリネット	山崎 隆弘
ホルン	永井 孝治
ファゴット	隈本 昌洋

アントン・ルビンシテイン ピアノと木管楽器のための五重奏曲について



アントン・ルビンシテインは、作曲家としては、チャイコフスキーの師匠であり、親友であり、ラフマニノフの憧れであり、交響曲・協奏曲から室内楽曲、オペラまで幅広く作曲し、サンクト・ペテルブルク音楽院を創設するなど、彼なしには今のロシア音楽はなかったとも言われている。また、ピアニストとしてはリストの後継者とも言える存在で、特にロシア人のピアニストとしてはじめて欧米で熱烈に迎えられた。そんな彼が、死後瞬く間に忘れ去られていったことは、西洋音楽史上の謎と言って過言ではない。

彼の円熟期はロマン派の後期に差し掛かり、作風は時代遅れの感は否めなかった。さらに特定の出版社から出版されなかったことも大きい。また、彼の演奏の真似ができるピアニストがいなかったということも一説にあげられている。

そんなルビンシテインの曲の中でも、さらに無名なのが本日演奏する五重奏曲である。

この曲は、彼の20代に作曲された、全曲で35分以上かかる大曲であり、これは木管楽器のアンサンブル曲の中でも群を抜き、交響曲1曲分の長さである。全編がピアノ主体で、終始ロマン派の美しい響きに魅力される。ベートーヴェンを崇拝していた彼だが、どちらかと言えばシューベルトのようなメロディ・メーカーであり、管楽器に次々と美しい旋律が登場する。ドイツロマン派の影響がかなり強い作風の中でも、時にロシア的に感じるところがあるのも魅力的だ。第1楽章は、木管の温かな響きが華麗なピアノに花を添える。第2楽章は、スケルツォで、トリオは一変し美しい旋律が現れる。第3楽章は、ホルンから始まる叙情的とも言える美しい旋律で満たされる。第4楽章は、尊敬するベートーヴェンの影響が見られ、情熱的に壮大に全曲を締めくくる。